

「フィランソロピーのフロンティア」における 助成財団の役割

2014年3月15日 日本NPO学会第16回年次大会

B1【ファンドレイジング】個人発表

小林立明

「フィランソロピーのフロンティア」とは

「フィランソロピー」の再定義：
社会的、環境的目的に向けた、民間資源の動員

伝統的フィランソロピー

フィランソロピーのフロンティア

主体
(非営利から営利を
含む多様な団体へ)

助成財団
個人寄附者

社会的投資団体
金融機関、企業、個人投資家

手法
(寄附から投資へ)

グラント
寄附

インパクト投資、社会的投資、
新たな資金調達プラットフォーム

対象
(非営利から非営利・
営利のハイブリッドへ)

非営利団体

社会的企業、コミュニティ・ビ
ジネス、ソーシャル・ビジネス

「フィランソロピーのフロンティア」登場の背景

主要先進諸国における財政赤字の拡大に伴う政府支出の削減とサービスの外部委託化＋非営利セクターの発展

非営利
セクター

寄附・補助金からサービス収入へ
経営の高度化
多様な寄附金調達手法の開発

経営安定・インパクト
拡大にむけたスケール
アップ＋社会的企業へ

政府・
自治体

非営利団体への補助金から、
非営利セクター基盤整備へ

営利・非営利ハイブ
リッド型法人格
社会的インパクト債

企業・
投資

企業の社会貢献・CSR
社会的責任投資

CSV、社会的投資、
インパクト投資

「非営利の限界」問題をいかに打破し、他セクターとの協働を促進するか。
(利益を構成員で分配出来ないため、株式等の発行を通じた資金調達による事業のスケールアップが困難。)

「フィランソロピーのフロンティア」の研究対象

「フィランソロピー」の再定義により、以下の研究対象が新たに加わる。

担い手	資金仲介団体、二次的証券市場、社会的証券取引、「フィランソロピー銀行」としての財団、起業ブローカー、基盤整備支援団体とベンチャー・フィランソロピー、オンライン寄附ポータルサイトとオンライン取引サイト、企業財団、ファンディング・コラボラティブ等
ツール	ローン・貸し付け保証・信用強化、確定利付証券、証券化、エクイティ投資、社会的インパクト債／成功報酬債、保険、社会的責任投資・社会的責任購入、グラント等
課題	新たなフィランソロピー市場の登場が資金分配に与えるインパクト、フィランソロピー市場の需要面、社会的インパクト評価、フィランソロピーのフロンティアを促進するための政策等

新たな時代の助成財団の課題

「フィランソロピーのフロンティア」領域において、助成財団は、以下のような限界に直面。

グラント・メイキング中心。
(投融資によるスケール・アップは一般的ではない。)

非営利団体中心。
(社会的企業やマイクロファイナンス団体などの営利団体は一般的な対象ではない。)

手法

対象

課題

アプローチ

資金

モデル形成とキャパシティ・ビルディングが中心。
(スケール・アップを通じた社会的インパクトの拡大は一般的ではない。)

支援規模が小さい。
(銀行・インパクト投資団体と比較し、資産規模も支援資金規模も小さい。)

課題解決に向けた4つのモデル

「フィランソロピーのフロンティア」において、助成財団が
取りうる4つのモデル

- 社会的企業に対する支援
- 社会的投資団体に対する支援
- フィランソロピーのフロンティアの基盤整備支援

グラント・
メイキング

- プログラム関連投資
- ミッション関連投資
(社会的インパクト債を通じた支援)

投資

4 モデル

非資金的
リソース

3つの組み
合わせ

- ベンチャー・フィランソロピー
- 触媒型フィランソロピー

- ハイブリッド型支援
- 共同ファンディング

事例1: グラント・メイキングを通じた基盤整備

ロックフェラー財団は、2008年に「社会的インパクト投資
パワーの活用」イニシャチブを立ち上げ、社会的インパ
クト投資の基盤整備に積極的に取り組んでいる。

新規市場開拓

- シンガポール社会的証券取引所開設
- ケニヤ社会的証券取引所開設

新たな資金調達手法

- インパクトアセット(ドナー・アドバイズド・ファンド+インパクト投資)モデル
- ノンプロフィット・ファイナンス・ファンドのSEGUE(持続可能な資本強化グラント)モデル

モデル形成

- アキュメン・ファンド設立支援(2001)

政策研究

- ハーバード大学社会的インパクト投資研究コラボラティブ
- J. P. モーガンの社会的インパクト投資マーケット動向調査

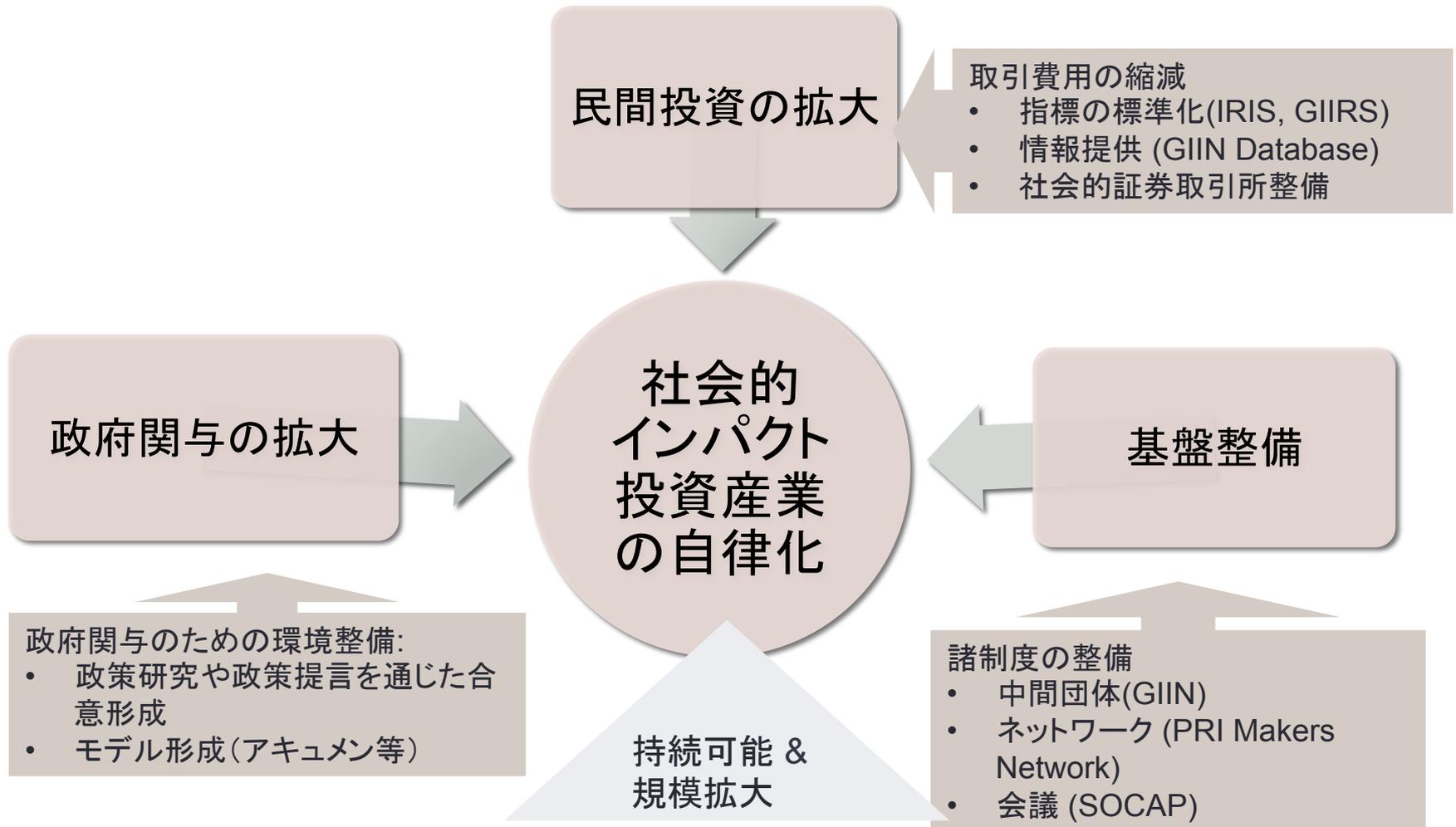
各種指標の開発

- GIIRS (グローバル・インパクト投資レーティング・システム)
- IRIS (インパクト報告&投資スタンダード)

ネットワーキング/ 中間団体育成

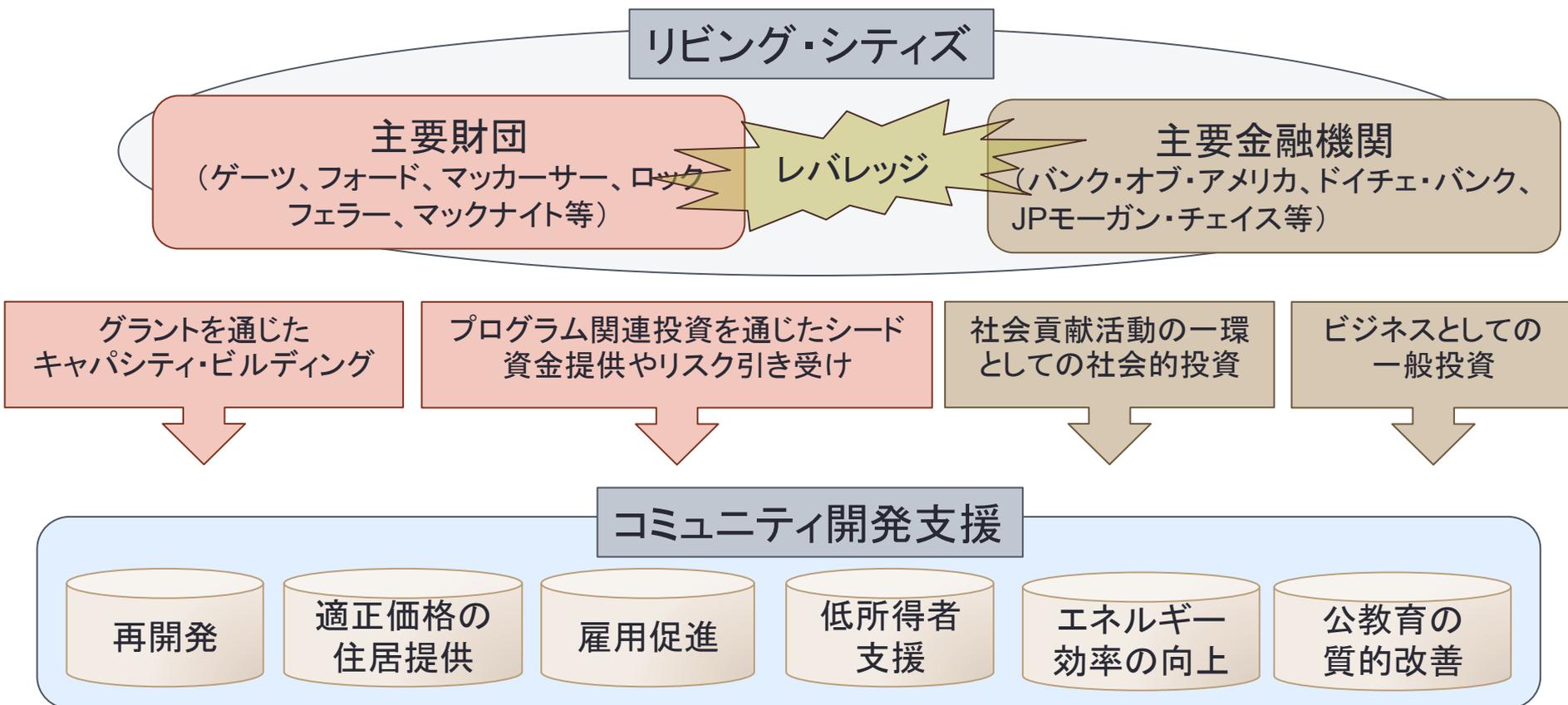
- GIIN (グローバル・インパクト投資ネットワーク)
- SOCAP (ソーシャル・キャピタル市場会議)

ロックフェラー財団イニシアチブのロジック・モデル



事例2: 共同ファンディングと触媒型フィランソロピー

米国の主要財団・金融機関が共同で設立したリビング・シティズは、共同ファンディングの手法を通じて米国のコミュニティ開発を積極的に支援している。



事例2: 共同ファンディングと触媒型フィランソロピー(続き)

クリーブランド広域大学サークル・イニシアチブは、クリーブランド財団が触媒となることで、地元団体やリビング・シティズなど全国団体からの資金調達が可能になった。

クリーブランド広域大学サークル・イニシアチブ

地元団体

(大学サークル会社、現代美術館、クリーブランド美術学校、地域交通公社、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、市・州政府)

クリーブランド財団(触媒)

全国団体
(リビング・シティズ)

それぞれのリソース提供＋
独自の資金調達

事務局機能＋資金提供(グラント420万ドル、
PRI600万ドル)で中核部分を支援

統合イニシアチブを通じて
1475万ドルを支援

総額1億5000万ドルの開発プロジェクトに

低所得者の
生活向上・雇用促進

保健・医療テクノロジー
回廊開発

広域大学サークル
再開発

エバー・グリーン
協同組合の設立

公共交通網の
整備

事例3:ハイブリッド型支援団体

オミディア・ネットワークは、助成財団と投資団体の2つの法人格を持つハイブリッド型支援団体として、グラントと社会的投資を有機的に組み合わせた支援を行っている。

オミディア・ネットワーク

助成財団 (501C3)

有限責任会社 (LLC)

戦略的連携

非営利団体向けグラント
(プロジェクト支援、キャパ
シティ・ビルディング支援)

ベンチャー・フィランソロピー
(経営支援、人材育成、ネッ
トワークへの参加等)

営利団体向け投資
(成長資金、スケール・
アップ資金等の支援)

経済的・社会的変革を担う革新的な団体を支援

消費者向けインター
ネットとモバイル

社会的企業

金融包摂

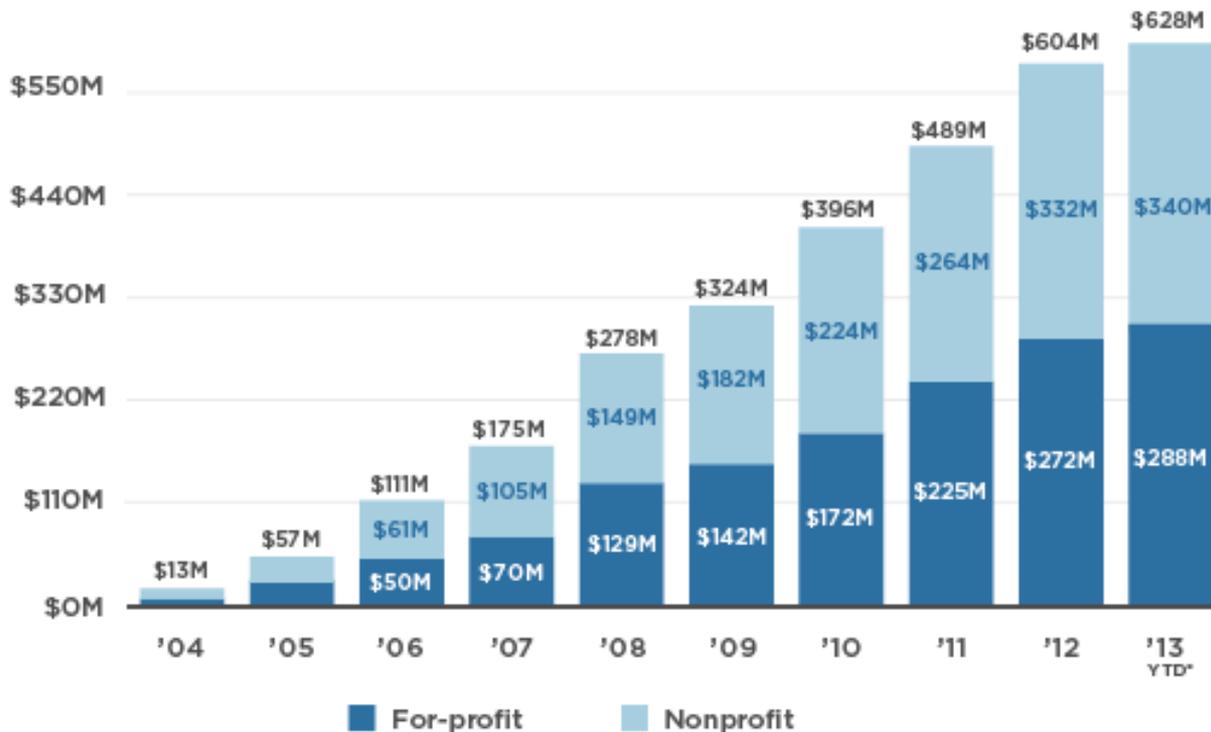
政府の透明性

所有権

事例3:ハイブリッド型支援団体(続き)

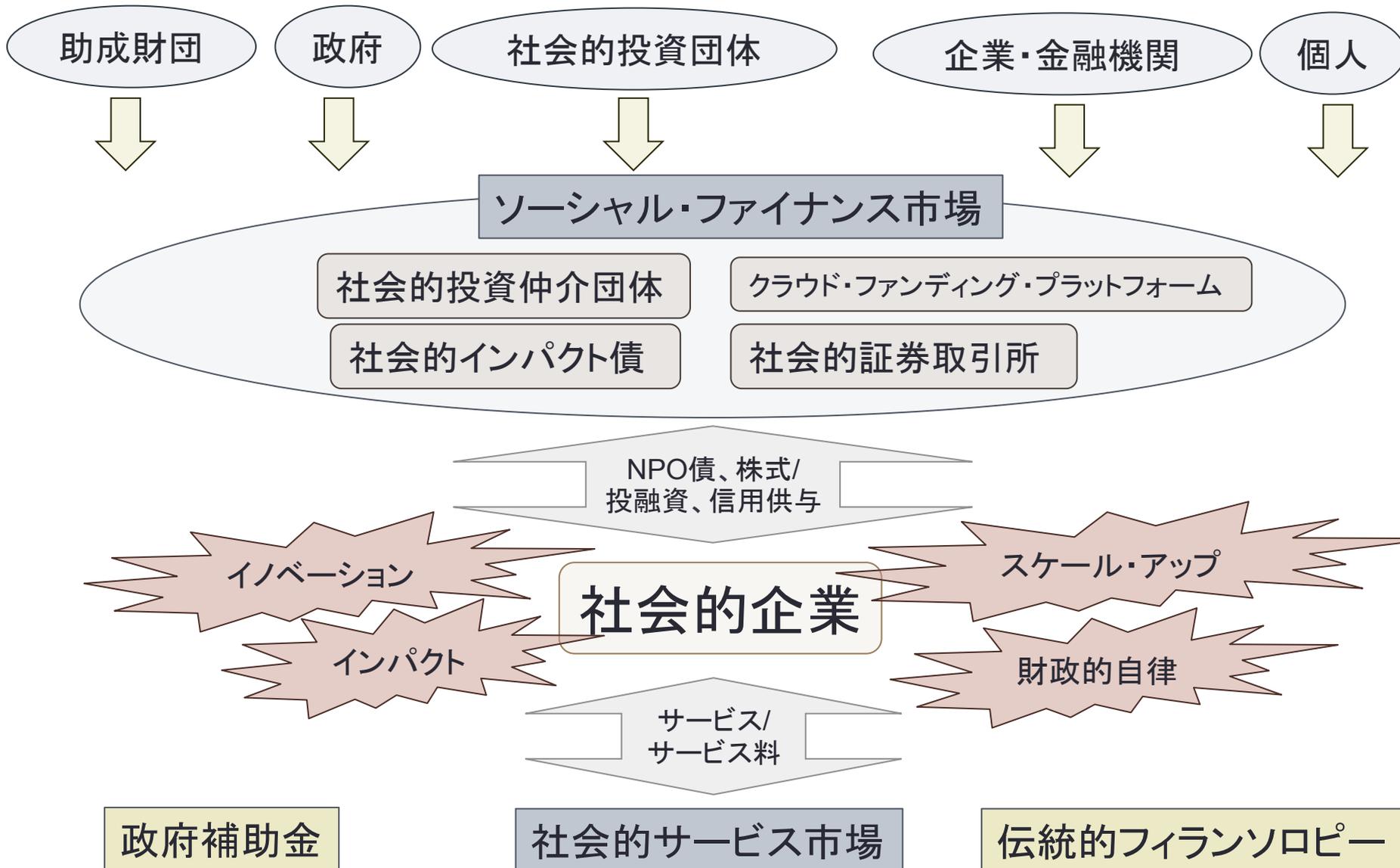
オミディア・ネットワークは、2004年の設立以来、現在までに総額6億2800万ドルの支援を行っている。内訳は、投資が2億8800万ドル、グラントが3億4000万ドルである。

オミディア・ネットワークの資金コミットメントの推移



(単位:100万ドル) オミディア・ネットワークのウェブサイトより

新たなソーシャル・ファイナンスの仕組みへ



「フィランソロピーのフロンティア」における助成財団のユニークな役割



ご清聴ありがとうございました!

©Tatsuaki Kobayashi (March 2014)

All rights reserved

Contact: [tatsuaki.kobayashi\(アット\)gmail.com](mailto:tatsuaki.kobayashi@gmail.com)

(ご意見・ご質問等はアットの部分に@を入れてメールをお送りください。)